



アルメニアのテロ

ヴガル・スレイマノフ  
アゼルバイジャン共和国  
地雷対策庁理事長

# 沈黙の戦争

アルメニアのアゼルバイジャンに対する  
地雷テロで命が奪われ続けています









**国**際調査によると、アゼルバイジャンは地雷汚染が最も多い国の一つです。これらは、カラバフの山岳地帯と低地部分であるアルメニア領土のほぼ20%を30年間にわたりアルメニアが占領した結果であります。ここ数年にわたり、侵略者は占領地を灰に変えただけでなく、ほぼ完全に採掘してしまいました。2020年にアルメニア占領が終了した直後、地雷対策庁（ANAMA）は、占領から解放され戦争の影響を受けた地域から地雷を除去するための組織的な作業を開始しました。これは、解放された土地での修復と創造的な作業を安全に行うための主な条件です。そして「グレート・リターン」プログラムの枠内での住民の帰還であり、これは紛争後の州の優先事項の一つと考えられています。現在までに地雷の爆発により、さまざまな重篤度のアゼルバイジャン国民243人が死亡または負傷していることを指摘するだけで十分であり、原則として、以前

はさまざまな民間物体が置かれていた非軍事地域内で行われます。

1998年に設立されたANAMAは、2020年の愛国戦争におけるアゼルバイジャンの勝利後、新たな問題を解決するために共和国大統領の布告によって再組織され、公的法人の地位を獲得しました。それ以来、この組織は占領から解放された国の領土から地雷やその他の不発弾を除去するとともに、この点での作業を調整してきました。終戦後、解放された地域では合計100 000千個以上の地雷やその他の不発弾が確認され、無力化されました。地雷の危険との闘いは、直接のおよび間接的に持続可能な開発の問題と相互に関連していることに留意する必要があります。

2023年3月2日、バクーで開催された新型コロナウイルス感染症に関する非同盟運動コンタクトグループサミットで、アゼルバイジャンのイルハム・アリエフ大統領は、地雷汚染問題に国際的な注目を集めるため、志を同じく

する地雷被害国のグループを創設することを提案しました。非同盟運動の加盟国の多くが地雷や不発弾による汚染国に含まれていることも指摘されました。解放された領土の地雷除去作業は、ANAMA と協力して国防省や非常事態省やアゼルバイジャン国家国境局の関連部門や多くの地元企業やそしてMAG、Safe Lane、RPSなどのこの分野で評判の高い外国組織も団体によって実施されています。

地雷除去作業は、特別な機械的手段を使用し、動物の助けを借りて人力で地雷を探索することによって実行されます。いわゆる地雷

を使用して処理されます。最新の設備と機械的手段を自由に使えるANAMAは、人員の数も徐々に増やし、物的および技術的基盤を拡大しています。新しく採用された工兵は、「人道的地雷除去」、「戦場の撤去」、「応急医療援助」などに関する理論的および実践的なコースを受けます。グループリーダーや、部門リーダーや、スーパーバイザーなど向けの高度な研修コースも開催されます。これに加えて、ANAMA は他政府の工兵だけでなく、同じく解放地域の地雷除去に携わる非政府機関や民間団体向けの講習も実施しています。

占領から解放された地域での作戦中



原の遠隔航空検査システム(RAMS - 遠隔地雷原調査)、が積極的に使用されています。国際地雷対策基準 (IMAS) に従って、技術的および非技術的作業の最適かつ正確な実施を促進します。このシステムの主な役割は、ドローンに搭載された高感度サーマルカメラであり、そこから情報が送信され、人工知能

にANAMAが入手した予備データによると、147.988ヘクタールの面積で高度の地雷汚染が確認され、675.570ヘクタールの面積で中程度および低度の地雷汚染が確認されました。高レベルの採掘は、主に破壊された都市や村の領土、庭園や耕作地、墓地、さらにはかつての軍隊の接触線に沿った土





地で観察されています。ほとんどの場合、鉱山は川や運河の岸辺、道路や道端、農地、庭園や区画、森林、墓地、溝などで見つかりま



す。2020年の戦後、占領から解放された地域の101 000千ヘクタール以上の地域で地雷除去作業が行われました。2023 年には、これらの活動は5万ヘクタールをカバーする予定です。インフラプロジェクトが実施されている集落や地域に主な注意が払われます。

アゼルバイジャンのラチン地方のザブク村とスス村で、住宅建物の撤去作業中に、家や庭の敷地の入り口に設置されたワイヤーによって作動するブービートラップが発見されました。そして、アルメニア製の「PMN-E」型地雷も同様で、その下には手榴弾が置かれていたが、これはもちろん、より強力な爆発とより多くの死傷者を達成することを目的としたものであります。さらに、占領から解放されたアグダム地域の領土での地雷除去作業中に、やや特殊な、高い破壊力を備えた爆発装置が発見されました。これらの装置は、240mm 9M24F ターボジェットと、30 個以上の 120mm 迫撃砲弾を束ねて道路の脇に埋めたもので構成されています。3~4kg



の爆発物を含むこのような装置の爆発によってどのような破壊と死傷者が発生するかを想像するのは難しくありません。テルテル川、ガルガーチャイ川、ハカリ川、ハチンチャイ川の河床や土手沿い、また地下の淡水源であるカリズで多数の不発弾が発見されました。フィズリ州のアシャギ・セイドアハメドリ村では、0.31

ヘクタールの面積で86個の対戦車地雷と35個の対人地雷が発見されました。

一般に、アルメニアの占領から解放されたアゼルバイジャンの領土で確認された地雷の大部分は、PMN-EおよびOZM-72タイプの地雷に適合したアルメニア製の製品です。これに伴い、地雷除去作業中に、LAR160や



IRS

アルメニアのテロ











9N235など、国際条約で使用が禁止されているクラスター弾が多数確認され、無力化されました。

上記の事実は、アルメニア軍が民間人に対する戦争での敗北を取り戻し、アゼルバイジャンの民間人に可能な限り多くの死傷者を出したいという願望を明らかに証明していま

す。これは、アルメニアが非建設的な立場を取り続けており、紛争終結後の地域の状況の安定化と和解の過程をあらゆる面で妨げていることを示しています。残念なことに、アルメニアのアゼルバイジャンに対する地雷戦争では死傷者が出ていないわけではありません。このように、アグダム地域のユシフィジャンリ村の







墓地で起きた事件では、一家族5人が殺害され、重傷を負いました。同様の事件がラチン地区のスアラシー村でも起きました。注意すべきは、ラチンのギェルバード村、ダシャルティ - シュシャ、ヌズギヤル、メフティリ - ジャブレイル、バルタズ - ザンギラン、シグナグ - ホジャリ、ハンリグ - グバドリ、マルジリ、シャープラク - アグダム、スゴヴシャン - テルテル、ユハリ・ヴェイサルリ、ヤグリヴェンド - フィズリ地区の地雷事件が、アゼルバイジャン軍とアルメニア軍の間の以前の接触地帯の外で発生しました。

統計によると、アルメニア・アゼルバイジャン戦線での戦闘停止に関する三者声明が署名された2020年11月10日から2023 October 23日までの期間に、アゼルバイジャン領土内で地雷やその他の弾薬の爆発により333人が負傷して、65人が死亡、268人が負傷しました。第二次カラバフ戦争に先立つ約30年間のアゼルバイジャン領土占領中に、子供357人、女性38人を含む合計3,412人が地雷で死亡しました。

これらすべてにより、同じく ANAMA に割り当てられた爆発性弾薬の危険性に関する教育措置の関連性がさらに高まります。これらの措置には、解放された地域や戦争の影響を受けた地域における地雷や不発弾によってもたらされる危険性と、この点で必要な予防策について国民を教育する取り組みが含まれます。教育活動は他の政府機関や国連のさまざまな部隊—開発計画 (UNDP)、国際児童緊急基金 (UNICEF)、難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、および多くの地元の非政府組織と協力して実施されています。アゼルバイジャンは過去の期間にわたり、地雷の危険との戦いにおいて欧州連合、英国、ハンガリー、米国、日本から支援を受けてきました。しかし、アゼルバイジャンの解放領土と戦争で引き裂かれた領土における地雷問題の規模を考慮すると、現在のレベルでは国際支援はたりないです。本質的に国際的なこの問題は、国際協力の結果として効果的な解決策が可能であるように思われます。★